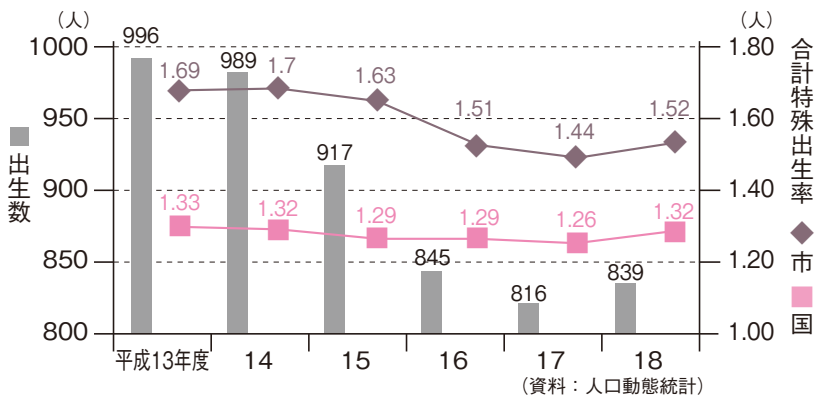


# 特集 子育てを全力で応援しています

高山市の出生数と合計特殊出生率の推移



**社会に大きな影響を与える  
少子化問題**

急速に進行する少子化は、労働力人口の減少や経済成長率の低下など、社会全体に大きな影響を及ぼします。

少子化の要因としては、仕事と子育ての両立の難しさや、子育ての精神的・身体的な負担感に加え、経済的負担の増大などさまざまな問題が考えられます。

**高山市の  
合計特殊出生率は1.52**

少子化とは、出生率の低下により子どもの数が減少していくことをいいますが、少子化を判断する一つの指標として「合計特殊出生率」がよく使われます。

平成18年度の「合計特殊出生率」は、国が1.32、高山市は1.52となつています。いずれも平成17年度に比べて上昇したものの、依然として長期的に人口を維持できる水準とされる2.07よりかなり低い状況にあります。

**地域社会全体で  
子育てを支えよう**

子育て支援のためには、さまざまな視点に立った総合的な取組みが大切であり、高山市では、0歳以前(妊娠期)から18歳(成年期)までの総合的な支援に取り組んでいます。

今後も、「子どもにやさしいまちづくり計画」に基づき、基本理念である「子どもがやさしさに生まれ、健やかに育つまち」を目指した各種施策を地域のみならずとも積極的に進めていきます。

合計特殊出生率：1人の女性が一生に生む子どもの数を示した人口統計上の指標

## 本郷小校区に留守家庭児童教室新設

### ●市内では15カ所となりました

市では、本郷小学校区(上宝地域)に留守家庭児童教室を新設し、4月から運営がスタートしました。

この教室は、本郷小の空き教室を利用して設置したもので、市内での開設は15教室となりました。なお、平成20年度から留守家庭児童教室の運営を委託化し、市民活動団体「学童保育 すまいる高山」が行っています。



**経済的な負担軽減に  
支援金を支給**

生まれてから継続して4カ月以上住民登録する児童の養育者に、第1、2子は10万円、第3子以降は20万円の子育て支援金を支給します。

**絵本を通じたふれあいを  
サポートします**

読み聞かせを通じた親子のふれあいづくりを大切にしていただこうと、4カ月健診時と1歳6カ月健診時の2回、絵本をプレゼントします。

**中学3年生まで  
医療費を無料化**

義務教育修了までの児童・生徒について、健康保険が適用される医療の自己負担分(食事代を除く)を助成します。

**第3子以降は  
保育料負担なしに**

第3子以降の保育園の保育料は無料です。なお、幼稚園については、第3子以降の入園料、保育料が全額補助となります。

**企業の子育て支援策を  
応援します**

事業所内への託児施設の設置に

(4ページへ続く)